



佐高 SGH通信 2020

スーパー グローバル ハイスクール

No.9 (2020年7月20日発行)

スリランカの小学生と最初の交流を行いました ～宇都宮大学 UU-TEA Project と連携して～

令和2(2020)年7月14日(火)16~17時に、SGHクラブ(スリランカ班)の高校1,2年生11名が、画面对話を行うアプリであるZoomを使って、スリランカの子供達と最初の交流会を行いました。スリランカのNuwara Eliya県という山間地域にある茶畑に住む12人の小学1年生です。お互いに母語ではない英語で言葉が通じました!最初の今回は交流程度でしたが、高校生たちは子供達から大きな感動を得た様で、次回以降に向けて、単なる交流活動から子供達のための研究・実践活動へと深めていく熱意が高まりました。

◇参加者

- ・宇都宮大学 栗原俊輔先生(国際学部准教授)
- ・栗原研究室 大学生5名(Zoomで適宜助言)
- ・Nuwara Eliyaの農園の小学生12名
- ・佐野高校 SGHクラブ(スリランカ班)11名
- ・SGHクラブ顧問 高久順 大嶋浩行 片柳哲也

◇使用言語

- ・英語で交流。現地の母語はタミル語。
- ・現地の小学生は英語が通じた。場合によって現地の小学校教員が母語のタミル語で通訳したり、回線不調時には宇大の栗原先生が国際電話でタミル語を使い現地と繋いで復旧した。



◇活動内容(英語)

- ・チームリーダー…大嶋 美聖乃さん(2年) 司会進行…内田 小温さん(2年)。
- ・「一人ひとり自己紹介」「高校生がダンス披露」「佐野のまちと佐野高校の紹介」「クイズで楽しもう」「スリランカの子供達や先生と質疑応答(研究のメイン)」「スリランカの子供たちの作品紹介」「クロージング挨拶」

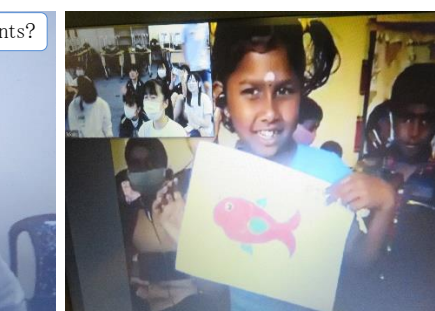
◆子供たちはダンスが大好き。見よう見まねで自然と一緒に踊りました!とても上手! ◆佐高の紹介を英語で行いました!



◆子供達がクイズに正解していくのに驚きました!(1年 三田 彩花さん)

◆先生方がとても笑顔で、楽しそうに質問に答えていたのが印象的でした(1年 小松崎寛人さん)

◆交流する前まで自分の英語で相手に伝わるか不安でした、しかし…(1年 長島 咲空さん)



◆画面越しですが、遠い場所から私達に話しかけてくれたということが、うれしくて堪りません！（2年 内田 小温さん） ◆当日の佐野高校側の会場風景（@英語演習室）



◇高校生の感想から

●「スリランカの子どもの顔を実際に見て交流できてとても感激しました。本当であれば質問を通して交流と研究を進めていくことが最善なのですが、次回からは今回の反省を活かしてできるように私達で改善したいと思えます。最初は心配でしたが、とても楽しくやる気が湧いてきました。子ども達のために教育について一生懸命取り組みたいと思えました。（2年 相田 紘夏さん）

●「スリランカの子供達とパプリカ英語 version を踊ったり、クイズをしたりしてとても楽しかったです！準備不足なところもあって最初はバタバタしたけど、次回はスムーズにできるようにしっかりと準備をして挑みたいですね。これからも宜しく御願います。（2年 大嶋 美聖乃さん）

●「今回の交流会で、改めてSGHクラブに入って良かったなと思えました。初めは、不安でしたが意外と交流できて、とても楽しかったです。特に、パプリカと一緒に踊れたのはとてもいい経験になりました。また、今回の交流会で新たな改善点が見つかったので、改善していきたいです。（1年 磯田 新太さん）

●「今日の Zoom での通信交流会で私が学んだことは、スリランカの子供達や、先生方へ質問ができたことで、自分のグローバルな考えがより一層深まった事です。よく聴き、よく話せる良い機会になったと、感じました。（1年 林 美優さん）

●「自分たちで準備したクイズやダンス、質問タイムでスリランカの子供達と交流を深めることができました。私達の質問に対して、将来の夢を語る子供達の姿を見て私も勇気づけられました。今日の交流会での反省点を見出し、来月の交流会に向けてさらに改善していきたいと思えます。（1年 山崎 彩加さん）

●「私は交流するまで自分の英語で相手に伝わるか不安でした。しかしスリランカの子供達の笑顔を見て、自分も自然と笑顔になってしまいました。今回の交流を通して上手いかなかったことは次に活かせるようにしたいです。（1年 長島 咲空さん）

●「初めての交流で緊張していたのですが、とても楽しめました。スリランカの子供達も笑顔でパプリカを踊ったりクイズに答えてくれたりとても楽しかったです。また、思ったりスリランカの子供達がクイズに正解していたので驚きました。（1年 三田 彩花さん）

●今回の交流は本当に初めて尽くしのことでしたが、子供達の笑顔が見られてとてもうれしかったです。子供達一人ひとりが遠い場所から私達に話しかけてくれたということが、うれしくて堪りません。また、画面越しですが実際にスリランカの子供達と先生方、そしてその環境を見られたこと、とても貴重な情報でした。…子供達の笑顔をもっと見られるように、これから研究に取り組んでいきます。（2年 内田 小温さん）

●「今日はありがとうございました。スリランカの先生が、とても笑顔で、楽しそうに質問に答えてくれている様子がとても印象に残りました。国境を越えた talk はいい刺激になりました。（1年 小松崎 寛人さん）

●「初めは自分の英語がうまく伝わるのかわからなかったのですが、今回の交流で少し自信がつかえました。また、スリランカの子供達の笑顔を見ると、私たちまで笑顔になることができ、この笑顔を見るために、より良い研究を深めていきたいと思えました。（1年 中塚 麻耶さん）

◇顧問教員の感想から

●「栗原研究室の大学生の方々もそうだと思いますが、佐野高校生たちも、この社会情勢下でいろいろ大変な事情を各自が抱えています。それでも、こうやって自分のことよりも、茶畑の子供達のために自分たちは何が出来るかと考える佐野高校生は、佐高教員ながら素晴らしいと、誇らしく思いました。（教諭 高久 順）

◇栗原俊輔先生（宇都宮大学国際学部准教授）から

●「楽しめたようでなによりです。次回もより楽しく、そして現地の子がもっと積極的に楽しめる、参加できるようなものができるとうれしいですね。最終的に何を指すのか、考えてみるとよいと思えます。」